



XX:XX

20:45



僕の彼女に抱き付き、セクハラをしていた子供がいた。僕はその子供の肩を掴み、彼女から引き剥がした。

対して力を入れていないのにも関わらず、その子供は大きく転がりとても不自然で、とても痛そうなオーバリアクションを取っていた。

ぎゃあぎゃああと叫んでいるその子供に、僕は呆れ返りながら説教をしてやった。

すると、その子供は

「お前絶対許さないからなっ!!
パパに言いつけてやるっ!!」

という捨て台詞を吐いて、何処かに走って行った。

まずいことをしたかも。

そう思い彼女の方を向くと、彼女は

「今の子、スポンサーさんの息子さん…なんだよね……」

と、か細い声で呟いた。

その二日後、僕と彼女はその『スポンサーさん』に呼び出された。

部屋に入るとそこには怒りの表情を浮かべたスポンサーさんと……

あのがきがいた。

部屋に入った瞬間

なんてことをしてくれたんだと。

お前1人どうとでも出来るんだぞと。

凄まじい剣幕で怒られた。

その怒気を前に、僕はただ、謝ることしか出来なかった。

そんな僕を嘲笑うかのように

回をつくんでいたあのがきが、
こう言った。

『お姉ちゃんが1週間、僕のものになつてくれたら許してあげてもいいよ♡』

と。。。。。

数日後……

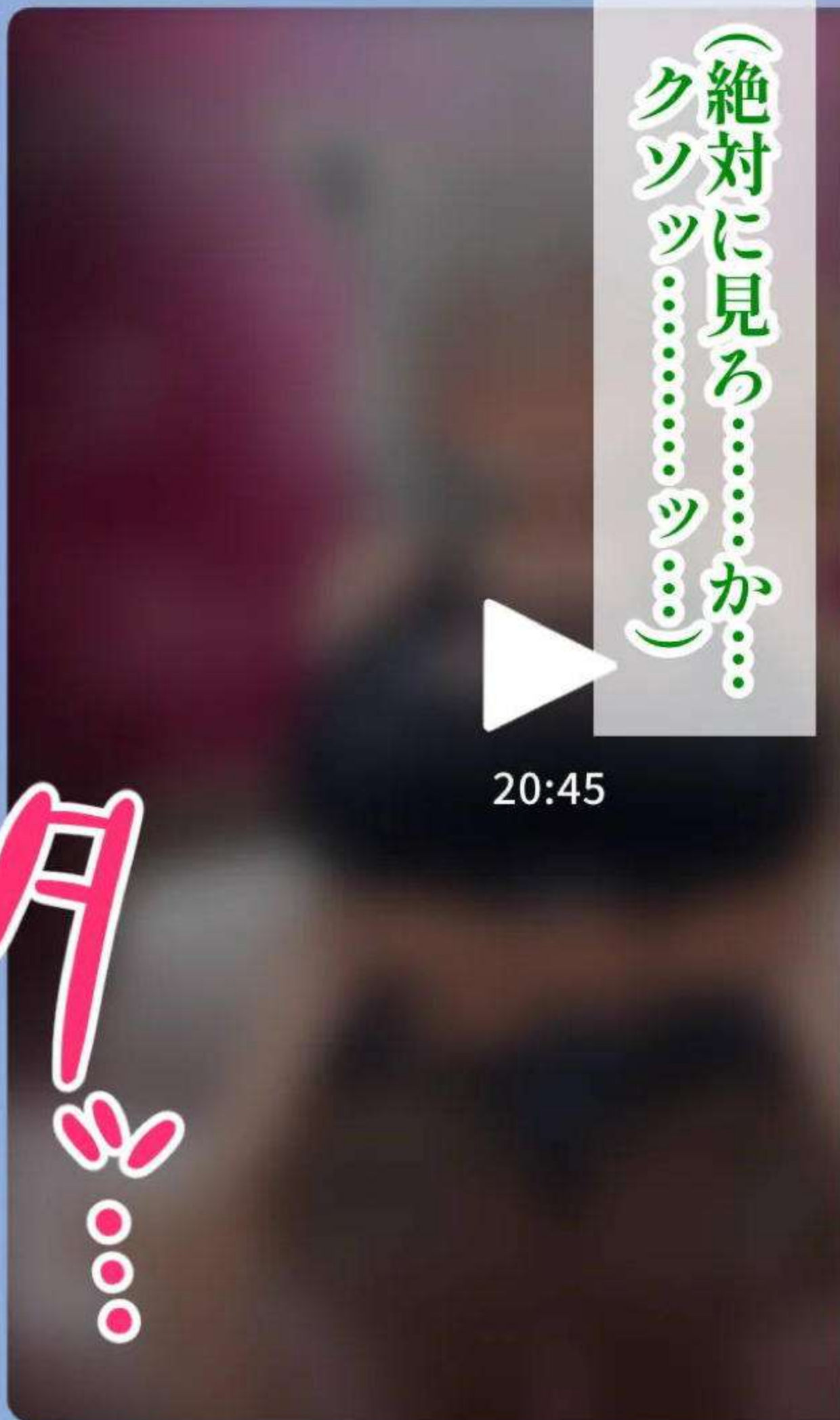
（はあ……はあ……!!
仕事は全く手に付かない……!!）

（何が僕のものに……だよ……っ……!!
あーもうっ……!!最悪すぎる……）

（何させられてんだろ……僕のせいで……っ
僕のせいでこんなことに……うああ……!!）

ア
オ
ッ

「ん……？」



(絶対に見る……ッ……か……クソッ……ッ……)

(な、なんだろう………
凄く嫌な予感がする………
見たくない………!!……見たくないけど……!!……)

(なんだ……? フブちゃんから……
いや、これはあのガキから………動画?)

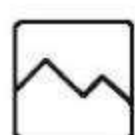
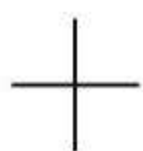


おい！クソヤロー！

フブキが何してるか気になるだろ

何やってるか、動画見せてやる

絶対に見ろよ！w





「よおっクソヤロー♡
ちやあんと見てつかあ？」

「あはは…○○くん…見てるう…？」

「なっ……!!」

ドキドキ…
ドキドキ…

|| XX:XX

20:45





「てめーのせいでまだ右肩いてーからさー♡
フブキにちんぽコキ手伝つてもらってんだわ♡」

「お前の彼女のマンコめっちゃきもちーぜ♡
いいオナホくれてありがとな♡」

「っ……このガキっ…!!」

ザーン…

チンポ♡

ふぶき



XX:XX

20:45





「♡...♡...♡」

「ほらあ♡フブキもさあ〜喋れよ〜
さつき教えてやったこととかさあ〜
さつきと言えつてえ♡」

ドキ

ドキ

ふぶき

ギ



XX:XX

20:45





「○○くんっ……♡
わ…私ね…*様の…
チンコキオナホ嫁になっただ…♡」

「もっ、もちろん……1週間だけねっ……？」

「君のちんちんとは全然違う…♡
*様のデカチンでねっ…♡
おまんこほじくっでもらったの…♡」



XX:XX

20:45





「それでね?*様ね?
私のこと、すつごく……
気に入ってくれた……みたいでね……?」

「オナホ嫁契約……
あと1週間期間延長したいんだって……♡」

「はあ……?!?そんなの……?!?」



XX:XX

20:45





「でもさっ、でもさっ!!
僕優しいからさっ♡
僕とフブキが交尾するところしっかり見てえ…」

「千文字以上ちやーんと
かんぞーぶん書いて
送ってきたら許してやるよ♡」

「は…はあ!!」



XX:XX

20:45





「ただしい〜…
僕が満足いかない感想だったら
一週間延長だかん♡」

「そ…そういうことだから…
ちゃんと、私と**様の交尾…」



XX:XX

20:45





「はっ…はっ…はあ…っ…!!」

「しっ…かり見てね…♡」

ニャー♡

ふふき



XX:XX

20:45





「うひっ♡うひっ♡
見せつけこーびっ♡最高♡」
「もうちんぽバキバキなっちゃまってるっ♡
絶対寝取ってやる♡もー我慢無理っ♡」

(ち…ちんぽでかつ…!!)



「挿入れるからねっ!!♡
挿入れるっ♡挿入れるよっ♡」
「は…はいつ…♡お願いします…♡♡」

キキキ

キキキ

ジュンジュン



XX:XX

20:45





「らっ♡」

おっ!!♡

グッ♡

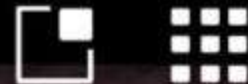
グチュ♡



XX:XX

20:45





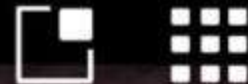
「ううっ♡最高っ♡最高っ♡最高っ♡
ビンボーザコオスに見せつけんのたまんねっ♡」



XX:XX

20:45





「じごくじとくだからなっ♡
ざまーみろっ♡ザコがっ♡」

XX:XX

20:45





「はっ、はいっ♡
気持ちいいっ♡ですっ♡」

「はあーっ♡フブキのマンコたまんねっ♡
お前もきもちーだろっ!!?」

はっ♡

はっ♡

っ♡

ふ、ふっ♡

ぐ♡

ズチ♡

ズチ♡

ズチ♡

ズチ♡

XX:XX

20:45





「ねえっ!! 中出ししてもいいーでしょうっ!!」

「うひっ♡サイコーッ…♡
マジたまんねっ♡せーし漏れちゃうっ♡」



XX:XX

20:45





「うんっ♡分かったっ♡
あっやばっ♡出るっ出ちゃうう♡」

「は…はいっ…♡
*様の濃い精液っ…
た、たくさん射精してくださいっ…♡」

パッ♡

パッ♡

グッ♡
グッ♡

パッ♡

パッ♡

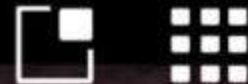
XX:XX

20:45





「出るっ♡」



「ほお〜♡
俺に齒向かったカスの彼女に…♡
見せつけ生中出し…♡さいつこ…♡」





「ふっ...♡」

ふっ♡♡♡

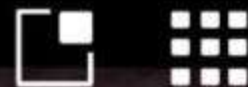
ぽん♡♡♡

ドク...♡

ふっ♡♡♡

XX:XX

20:45



「へへっ、どーだったよっ♡
俺のデカチンこーびはっ♡」
「せっかく見せてやったんだからさっ
ちやーんと感想送ってこいよっ♡」

はー♡

はー♡

デッ♡

XX:XX

20:45





「くそ……つくソオツ……ツ……!!」

その後、僕は泣きながら千文字の感想文を書いて……

憎くて仕方のないあのガキに送った。

竿の大きさ、精液の多さ、セックスのうまさ……

言いたくもないことを、吐きそうになりながら取り繕って……

すると、返信が来た。

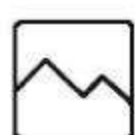


何この感想文、舐めてんの？

謝ってもねーし、ふざけてんだろ

許せねーから1ヶ月延長ね

俺の子供産ませてやる！w



何この感想文、舐めてんの？

謝ってもねーし、ふざけてんだろ

許せねーから1ヶ月延長ね

俺の子供産ませてやる！w

「はっはあっ…はあ…っ…!!」



「う...う...う...!!
この...この...クソガキツツ...!!」



その後、彼女が僕の元に
帰ってきてくれたのは半年も先のことだった。

しつかりと……..
あのクソガキの子供を仕込まれて……♡

僕の彼女に抱き付き、セクハラをしていた子供がいた。僕はその子供の肩を掴み、彼女から引き剥がした。

対して力を入れていないのにも関わらず、その子供は大きく転がりとても不自然で、とても痛そうなオーバリアクションを取っていた。

ぎゃあぎゃああと叫んでいるその子供に、僕は呆れ返りながら説教をしてやった。

すると、その子供は

「お前絶対許さないからなっ!!
パパに言いつけてやるっ!!」

という捨て台詞を吐いて、何処かに走って行った。

まずいことをしたかも。

そう思い彼女の方を向くと、彼女は

「あいつ、スポンサーさんこのガキだぞ……」

と、か細い声で呟いた。

その二日後、僕と彼女はその『スポンサーさん』に呼び出された。

部屋に入るとそこには怒りの表情を浮かべたスポンサーさんと……

あのがきがいた。

部屋に入った瞬間

なんてことをしてくれたんだと。

お前1人どうとでも出来るんだぞと。

凄まじい剣幕で怒られた。

その怒気を前に、僕はただ、謝ることしか出来なかった。

そんな僕を嘲笑うかのように

回をつくんでいたあのがきが、こう言った。

『お姉ちゃんが1週間、僕のものになつてくれたら許してあげてもいいよ♡』

と。。。。。。

数日後……

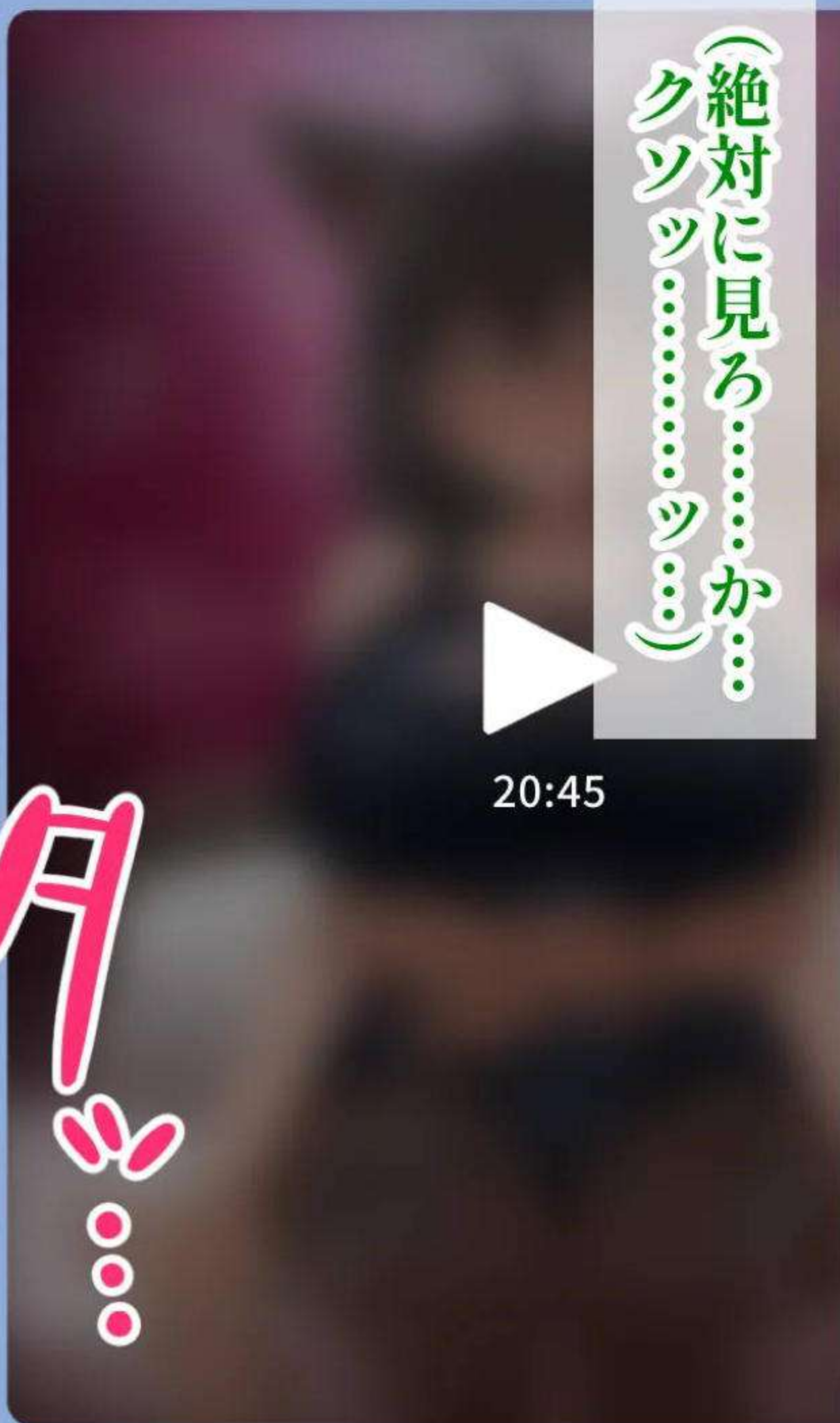
（はあ……はあ……!!
仕事は全く手に付かない……!!）

（何が僕のものに……だよ……っ……!!
あーもうっ……!!最悪すぎる……）

（何させられてんだろ……僕のせいで……っ
僕のせいでこんなことに……うあああ……!!）

ア
ッ
ッ
ッ

「ん……？」



(絶対に見る……ッ……か……クソッ……ッ……)

(な、なんだろう………
凄く嫌な予感がする………
見たくない………!!……見たくないけど………!!)

(なんだ……? フブちゃんから……
いや、これはあのガキから………動画?)

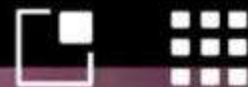


おい！クソヤロー！

フブキが何してるか気になるだろ

何やってるか、動画見せてやる

絶対に見ろよ！w



「よおっクソヤロー♡
ちやあんと見てつかあ？」

「……っ!!」

「なっ……!!」

ヒュー……

ミキミキ……
ミキミキ……



XX:XX

20:45





「てめーのせいでまだ右肩いてーからさー♡
フブキにちんぽコキ手伝つてもらってんだわ♡」

チンポ♡

「お前の彼女のマンコめっちゃきもちーぜ♡
いいオナホくれてありがとな♡」

「っ……このガキっ…!!」

ザーン…

ふぶき



XX:XX

20:45





「♡...♡...♡」

「ほらあ♡フブキもさあ〜喋れよ〜
さつき教えてやったこととかさあ〜
さつきと言えつてえ♡」

ドキ

ドキ

ふぶき

ギ

XX:XX

20:45





「……○○……お前のせいでよ……
このクソガキのオナホに
なっちまったじゃーねーか……♡」

「こいつ……ガキのくせによ……
死ぬ程交尾上手くて……」

「それに……お前のちんぽよりずっとでけえ……
その……デカチンに……
何回もマンコほじくられちまって……♡」



XX:XX

20:45





「それ…でよ…♡
コイツ、あたしんこと…
気に入ったっぽくてな…♡」

「あと1週間、オナホ契約…
延長したいんだってよ…♡」

「はあ…っ!!?そんなの…!!?」

ニゾー!♡

ふぶき



XX:XX

20:45





「でもさっ、でもさっ!!
僕優しいからさっ♡
僕とフブキが交尾するところしっかり見てえ…」

「千文字以上ちやーんと
かんそーぶん書いて
送ってきたら許してやるよ♡」

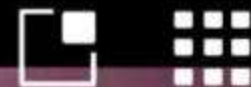
「は…はあ!？」

ムスー…

ヒャー♡

ふぶき





「ただしい〜…
僕が満足いかない感想だったら
一週間延長だかん♡」

「つーことだから…よ…
ちゃんと…アタシとコイツの交尾…」



XX:XX

20:45





「はっ…はっ…はあ…っ…!!」

ポイ…♡

「目に焼き付けとけよ…♡」



XX:XX

20:45





「うひっ♡うひっ♡
見せつけこーびっ♡最高♡」
「もうちんぽバキバキなっちゃまってるっ♡
絶対寝取ってやる♡もー我慢無理っ♡」



XX:XX

20:45





「挿入れるからねっ!!♡
挿入れるっ♡挿入れるよっ♡」

「……きめーからいちいち聞くな……っ……♡」



XX:XX

20:45





XX:XX

20:45





「ううっ♡最高っ♡最高っ♡♡
ビンボーザコオスに見せつけんのたまんねっ♡」



XX:XX

20:45





「じごくじとくだからなっ♡
ざまーみろっ♡ザコがっ♡」

XX:XX

20:45





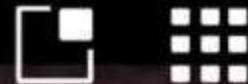
「うっ…うっせえっ
だ、黙っ⊣とけ…♡」

「はあ…♡フブキのマンコたまんねっ♡
お前もきもちーだろっ!？」



「うひっ♡サイコーッ…♡
マジたまんねっ♡せーし漏れちゃうっ♡」
「ねえっ!!中出ししてもいいーでしょっ!!」





「うんっ♡分かったっ♡
あっやばっ♡出るっ出ちゃうう♡」

「ダメっっつっても出すっ…♡
…だっ…ろーが…♡
勝手に出せっ…クソッ…♡」



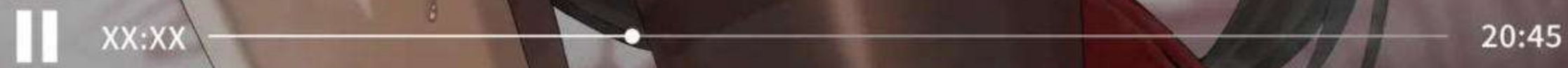


「出るっ♡」

おっ!?!

ふふ

ぐっ♡
びっしょり♡





XX:XX

20:45





XX:XX

20:45





「くそ……つくソオツ……ツ……!!」

その後、僕は泣きながら千文字の感想文を書いて……

憎くて仕方のないあのガキに送った。

竿の大きさ、精液の多さ、セックスのうまさ……

言いたくもないことを、吐きそうになりながら取り繕って……

すると、返信が来た。

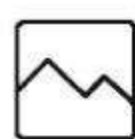
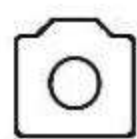
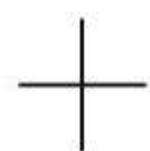


何この感想文、舐めてんの？

謝ってもねーし、ふざけてんだろ

許せねーから1ヶ月延長ね

俺の子供産ませてやる！w



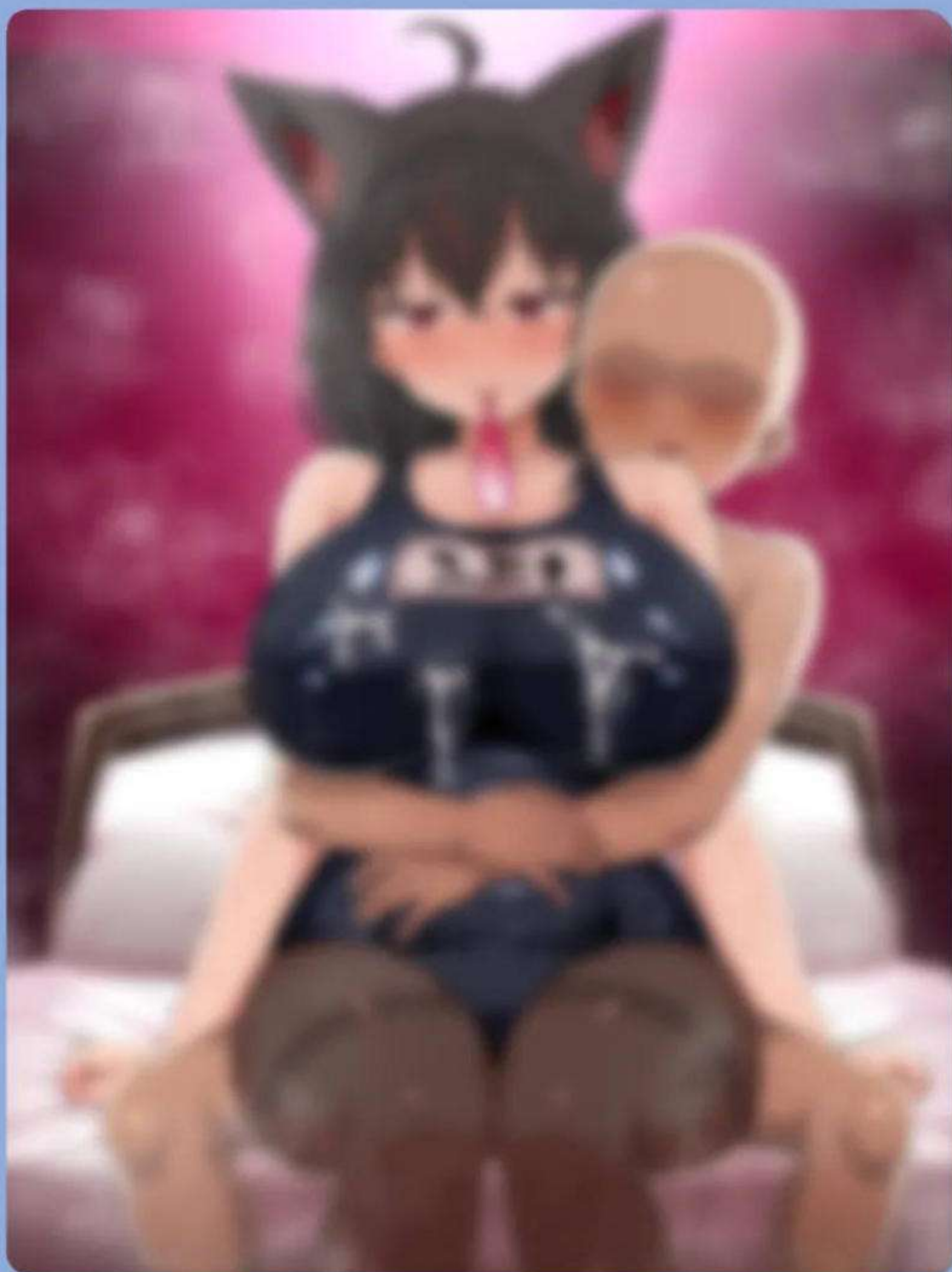
何この感想文、舐めてんの？

謝ってもねーし、ふざけてんだろ

許せねーから1ヶ月延長ね

俺の子供産ませてやる！w

「はっはあっ…はあ…っ…!!」



「う...う...う...!!
この...この...クソガキツツ...!!」



その後、彼女が僕の元に
帰ってきてくれたのは半年も先のことだった。

しつかりと……..
あのクソガキの子供を仕込まれて……♡